

2004年7月30日

沖縄総合事務局  
局長 様  
開発建設部長様  
港湾環境技術指導官様  
港湾計画課長様  
那覇港湾空港工事事務所長様

泡瀬干潟を守る連絡会

共同代表 内間秀太郎 小橋川共男 漆谷克



泡瀬地区公有水面埋立事業、海上工事 8 月着工を直ちに中止するように要請します

事業者は、泡瀬干潟、海上工事を 04 年 8 月から再開するとしています。この工事再開に対して、次の理由（詳細は別添記者会見資料）により、直ちに中止し、泡瀬干潟（海域）を保全するよう要請するものです。

- (Ⅰ) 泡瀬干潟、海上工事予定海域（水深 6 m）に、葉の長さが 40 cm のコアマモの群落、沖縄でこのような例は初めて。
- (Ⅱ) 「被度 50% 以上の海草藻場はない」は、事実と反します。
- (Ⅲ) 日本自然保護協会は、7 月 23 日、記者会見をしています。新たに確認された 4 種と、生息している場の保全を求めます。

日本自然保護協会 泡瀬干潟自然環境調査中間報告  
〈WWF・日興グリーンインベスターズ助成〉

2003年7月に発足した「泡瀬干潟自然環境調査委員会」は、その調査結果の中間とりまとめを行いました。主な3点について報告します。

なお、23日の記者発表のときには、泡瀬干潟の自然環境を分かりやすく表した3Dマップを配布いたします。

1. 泡瀬干潟は複雑な地形をもち、その環境に適応して多様な生物が生息している、日本を代表する生物多様性のホットスポットである。希少種や新種、新産種が埋立計画地に集中して分布している。
  - ・ 海草は、新（産）種2種を含め、11種が生育。既知の9種は、全てがレッドデータブック記載種。
  - ・ 海藻は、新種リュウキュウズタや、絶滅危惧I類のホソエガサ、クビレミドロが生育。
  - ・ 貝類は、新種ニライカナイゴナ、沖縄島新産のオサガニヤドリガイ、絶滅危惧種スイショウガイなどが生育。
2. 新たに4種の海藻類の生育を確認。今後も調査が進むほどに泡瀬干潟の重要性が高まるのは必至。
  - ・ 海上工事着工後に新たに発見された種は、これで11種に。
    - ① カラクサモク：絶滅危惧種に相当。これまでヤツマタモクとされていた。
    - ② リュウキュウズタの変種：側葉の形成されないリュウキュウズタ。
    - ③ クビレズタ（ウミブドウ）の変種：球状の葉がない。
    - ④ 水深6mのコアマモ：水深6mに生育することは本州でも稀。沖縄では報告例がない。
3. シギ・チドリ類の種数、個対数が多く、ムナグロの越冬地としては日本最大。
  - ・ 越冬期の2月の調査では、19種1160羽が記録され、優占種は、ムナグロ（34.1%）、メダイチドリ（32.2%）、シロチドリ（6.7%）、ハマシギ（6.6%）の4種が優占種であった。
  - ・ 春の渡りの4月の調査では、24種1268羽が記録され、優占種は、ムナグロ（67.6%）、メダイチドリ（12.1%）、キョウジョシギ（7.6%）の3種が優占種であった。

参考：  
事業者の見解や対応状況は、「2004.8.02 記者発表資料 中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業における仮設橋梁工事について」を参照して下さい。